



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2017.3

No.395

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



俳句の鳥

石光 章 (所沢市)

俳句は日本独自の短詩型文芸として、幅広く定着しています。森羅万象なにを詠んでもOKですから、当然鳥も登場します。果たしてどんな鳥が詠まれているのか“探鳥”を…と考えたのですが、正岡子規以降の近代俳句も入れると裾野が余りにも広すぎて始末に負えません。

そこで俳句の原点に返り、松尾芭蕉、与謝蕪村、小林一茶の3人に絞って「俳句の鳥」を鳥見人の目で探してみました。(ネタ本は岩波文庫の3人の句集。仮名、漢字は現代仕様に変えました)

◇ 芭蕉はホトトギス

三者三様、実に様々な鳥を詠んで(観て)います。種数は3人合わせて40位ですが、3人の好みは明らかです。芭蕉はホトトギス。蕪村ウグイス、一茶がガン(雁・カリ)です。

ホトトギスは芭蕉の鳥の句の1/4を占め、27句あります。その中から2句…

ほととぎす消え行く方や鳥一つ

ほととぎす鳴く鳴く飛ぶぞ忙(いそが)わし

最初の句は須磨で詠んだもので、鳥は淡路島。2句ともホトトギスが敏捷に、鳴きながら飛ぶ特徴をよく表しています。

蕪村、一茶からも1句ずつ…

〈蕪村〉ほととぎす平安城を筋違(すじかい)に

〈一茶〉如意輪も目まじし給え時鳥

片や飛び方、片や鳴き声。観察点の違いで選びましたが、共に切れ味の好い句です。



ホトトギス (菊川和男)

◇ 蕪村はウグイス

蕪村が最も多く詠んでいるのはウグイス。30句のウグイスから2句…

うぐいすの粗相がましき初音哉

鶯を雀かと見しそれも春

成鳥のウグイスでも、毎春初鳴きは覚束なく、それが却って微笑ましいものですが、「粗相がましき」とは、蕪村サン厳しい観察評です!

芭蕉、一茶のウグイスは…

〈芭蕉〉鶯や柳のうしろ敷の前

〈一茶〉梅さけど鶯なけどひとり哉

芭蕉は、ウグイスが植え込みの中を細かく動き回る姿を冷静に観ている印象です。一茶は孤独で悟りきった心境!?



ウグイス (海老原美夫)

◇ 一茶は雁

一茶のお気に入り(は)雁(カリ)です。雁という字だけでは種は特定し難く、カモ科マガン属の総称というしかないのですが、おそらく今も一番ポピュラーなガン、マガンでしょう。雁を32句も詠んでいます。中でも目に付くのが「かえる雁」…

ゆう暮の松見に来ればかえる雁

田の人の笠(は)こしてかえる雁

2句目の(はこ)は、大便の古語。伊豆沼でガンの群飛をご覧になった方の中には、あるいは落し物の直撃を経験された方もおいででしょう。田の人ならずもウンが付きます!

芭蕉、蕪村の雁は…

〈芭蕉〉振り売りの雁あわれなり恵美須講

〈蕪村〉立つ雁のあしもとより春の水

恵比寿講は商売繁盛の祭り。江戸時代、雁

は狩猟され売られていたのです。可哀そうに！ 蕪村の句も帰雁。渡り鳥の北帰行は、いつの世も人の心を打ちますネ。



マガン (海老原美夫)

◇ 閑古鳥は…

閑古鳥つまりカッコウは蕪村と一茶が多く詠んでいます。

蕪村の19句から2句…

閑古鳥招けども来ず柳こは
親もなく子もなき声やかんこ鳥

色々詠んでいる割には…ピンと来ません。

一茶の10句から2句…

閑古鳥ひだるそう世おそ桜
死んだならおれが日を鳴け閑古鳥

「おれが日」は命日です。一茶サンは、やはり悟りの心境です！

芭蕉の閑古鳥は1句しかありません。それが、かの名句…

憂き我をさびしからせよ閑古鳥

鳥見人の心を弾ませるカッコウも、俳句や短歌の世界では侘び寂びの象徴のようです。

◇ サギ比べ

3人がそれぞれサギ類を詠んでいます。

〈芭蕉〉稲妻や闇の方行く五位の声
〈蕪村〉夕風や水青鷺の脛(はぎ)をうつ
〈一茶〉へら鷺や水が冷たい歩き様

ゴイサギの夜行性を知悉した芭蕉の観察力は流石で、蕪村の「脛をうつ」も研ぎ澄まされた描写ですが、私は一茶に感嘆しました。へら鷺を観察しているのも驚きですが、へらの分だけ水に触れる面積が広くて冷たいだろうと詠む心根の優しさに惹かれます。

◇ スズメ

…で、一茶といえばよく知られているのは雀です。余りにも有名な2句…

我と来て遊ぶや親のない雀

雀の子そこのけそこのけ御馬が通る
雀をいかにも愛しそうに詠んでいます、こんな豊饒な句も…

慈悲すれば糞(はこ)をする世雀の子

ここにも(はこ)。確かに糞は鳥を探す大事な手懸りです。フムフム、フンフン！

ついでに芭蕉の糞の句も…

鶯や餅に糞する縁のさき

雀に戻って、芭蕉の雀…

花に遊ぶ虻(あぶ)な喰らいそ友雀

友雀は群れ雀のこと。虻に気をつけると、一茶に劣らぬ細かい心遣いが感じられます。

蕪村の雀は…

夕だちや草葉をつかむむら雀

これも繊細な観察力が生んだ句でしょう。

◇ ヒバリ

蕪村はヒバリを詠んでいません。

芭蕉は7句。その中から…

永き日も嘯り足らぬひばり哉

一日(ひとひ)一日麦あからみて啼く雲雀

いかにも芭蕉らしく格調高い淡々とした句風を感じます。

対して、一茶のヒバリは…

うつくしや雲雀の鳴きし迹(あと)の空

おりよおりよ野火が付いたぞ鳴く雲雀

こちらもヒバリを取り巻く空間を巧みに詠みあげています。

◇ キジ

キジの句も三様に味わいが…

〈芭蕉〉雲雀鳴く中の拍子や雉子の声
〈蕪村〉はげ山や何にかくれてきじのこえ
〈一茶〉雉鳴くや関八州を一呑みに

芭蕉のヒバリとキジのハーモニーは、春の探鳥の醍醐味。一茶のスケール感も野山を歩く喜びと共鳴するようです。

◇ 終りに

気ままに列挙した種の他にも、ツル、タカ、チドリ等、3人は多くの鳥を詠んでいます、数の上では一茶が圧倒的で200句超。次いで蕪村が150句弱、芭蕉は100句超です。句風も一茶が一番愛鳥精神に満ちているように、私には感じられました。それを最も感じさせられる一茶の傑作を最後に…

きょうからは日本の雁ぞ楽に寝よ



野鳥情報

さいたま市浦和区木崎3丁目 ◇8月26日、勤務先でケヤキの木に飛来したカッコウの仲間を確認。双眼鏡もなく、種は不明。すぐに飛び去った。9月1日午後3時過ぎ、秋を思わせる青空を上空高くサシバ3羽が舞っていた（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区膝子 ◇9月8日早朝、電線にズラリとコムドリ約150羽の群れ。10月9日、稲刈りの進んだ田んぼでノビタキ♂2羽♀3羽が動き回る。他にコサギ1羽、チュウサギ、ダイサギ、アオサギ（鈴木紀雄）。

春日部市倉常 ◇9月10日、水の入った田でアオアシシギ3羽（鈴木紀雄）。

神川町城峯山 ◇9月19日、タカの渡りを見ているとクマタカのペアがじゃれあいながら飛んで来て=写真=ビックリ仰天しました（森田文三郎）。



春日部市武里中野 ◇9月19日午後3時5分～3時25分、台風16号の余波で雨天の中、探鳥。田んぼでジシギ4羽が北西方向から飛来、内1羽は翼後縁が白く見えた。3回ほど旋回し、途中1羽が合流、都合5羽が近くの田んぼに降下。他の刈田も探すと、刈田のひこばえの畝の間で採餌する別の2羽を認めた。嘴の長さ、背中のクリーム線条模様、尾の長いことからタシギと思われる（石川敏男）。

蓮田市貝塚(5439-0521) ◇9月21日午前7時40分～8時15分頃、山ノ神沼でコガモ2

羽（関口明宏）。◇9月24日、同沼でマガモ♂エクリプス、カルガモ、コガモ♂エクリプス、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、カワセミ、モズ、ツバメ、ムクドリ、スズメなど（長嶋宏之）。

川越市伊佐沼 ◇9月23日、コチドリ2羽十、セイタカシギ20羽十、ツルシギ冬羽1羽、コアオアシシギ7羽、アオアシシギ1羽、クサシギ1羽、イソシギ2羽十 他にクロハラアジサシ少なくとも1羽、センダイムシクイ2羽（小林みどり）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇9月23日、ヒヨドリ3羽が北から渡って来た。今季初認。早速賑やかになった。9月27日、カケス1羽が北から渡って来た。今季初認。10月1日、エゾビタキが枯れ木の天辺でフライキャッチを繰り返していた。今季ここでの初認。ハヤブサが上空を通過した。10月12日、エゾビタキが2羽、枯れ木の天辺でジッととまっていた。10月15日、ハヤブサが旋回していた（長嶋宏之）。

蓮田市閩戸(5439-0511、5439-0500) ◇9月25日午前6時40分頃、閩戸保育園北側の電線でムクドリ約20羽、コムドリ1羽。9月30日、午前8時頃、吾庵橋近く見沼代用水沿い堤外公園でツツドリ赤色型1羽（関口明宏）。

白岡市白岡総合運動公園周辺 ◇9月26日、カルガモ、コガモ♂エクリプス、ダイサギ、コサギ、イソシギ、トビ、カワセミ、チョウゲンボウ、モズ、ハクセキレイ、セグロセキレイなど（長嶋宏之）。

白岡市高岩公園周辺 ◇9月28日、アマサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、モズ、シジュウカラ、スズメ、セグロセキレイなど（長嶋宏之）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇9月30日、午前8時過ぎに上空高く猛禽10数羽（種不明）西に向かう。続いてアマツバメ6羽上空を旋回南方に飛び去る。10月4日、目の前の枯れ枝に変わった鳥がとまった。ジッとしているので写真を撮った。家で調べたらジュウイチの若鳥だった。初めての出会いであった（内田克二）。◇10月7日、ダ

イサギ、アオサギ、カルガモ、イソシギ、カケスなど（長嶋宏之）。◇10月10日、エゾビタキ3羽、キビタキ♀タイプ2羽、あちこちでキビタキの声がする。エナガ15羽十、ヤマガラ10羽程の群れも（鈴木紀雄）。

さいたま市大宮区三橋 ◇9月30日夕方、関沼付近の鴨川で換羽中のオシドリ♂1羽、泳いだり、上陸したり。ほぼ繁殖羽に近かったが、銀杏羽は見られなかった。翌日には、いなくなっていた。他にカルガモ、コガモ、カワウなど。沼畔の藪でガビチョウ囀る（大塚純子）。

さいたま市中央区八王子5丁目 ◇10月1日、かやのき団地8号棟庭をエナガ7羽十、シジュウカラ6羽十、コゲラ、メジロの混群が通過（大塚純子）。

蓮田市関戸・駒崎周辺 ◇10月1日、駒崎・井沼地区農業集落排水施設屋根の上にチョウゲンボウ1羽。10月4日、大豆畑で今季初めてノビタキを2羽確認した。電線にオナガ。10月5日、大豆畑でノビタキ4羽、稲の中に数羽のセッカ、堤外公園の桜の木にシジュウカラとエナガ5、6羽の混群。10月6日、大豆畑でノビタキ4羽、チョウゲンボウが上空でホバリングをしていた。10月7日、大豆畑でノビタキ4羽、休耕田で10羽近くのアマサギを確認した。10月9日、ノビタキ1羽。10月10日、ツバメ1羽、今季終認（関口明宏）。

白岡市総合運動公園 ◇10月2日、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、カルガモ、コガモ、ハシビロガモ、クサシギ、カワセミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、モズ、シジュウカラ、メジロなど。10月6日、ゴイサギ、ダイサギ、チュウサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、チョウゲンボウ、キジバト、ハクセキレイ、セグロセキレイ、モズ、メジロなど（長嶋宏之）。

春日部市谷原新田 ◇10月2日午後5時頃、サギの一群が秀和病院の南側上空を南西に向かって飛過した。その数45羽、内アオサギ13羽、他はシラサギ32羽で種名は不明だが、アオサギよりは少し小さかった。アオサギだけの群れの移動は時々目にするが、

混群でしかも多数というのは滅多に見ないだろう（石川敏男）。

桶川市舎人新田調整池 ◇10月3日午前6時5分、コガモ8羽、今期初認（小貫正徳・とみ子）。◇10月10日午前6時14分、コサギ5羽、チュウサギ92羽。これから食事に出掛ける前か？ 10月19日午前5時57分、コガモ44羽（小貫正徳）。

児玉郡美里町小山川河畔 ◇10月3日、小山川堤防を散策中、桜の枝にアリスイがいた。撮影もでき、個人的には初めてのことだった（中島 保）。

久喜市下栢間元荒川大御堂橋下流 ◇10月3日午前6時23分、ダイサギ1羽 カワウ10羽 ダイサギが魚を捕食しようとしているところへカワウが来て追い込み漁を始める（小貫正徳）。

蓮田市駒崎 ◇10月7日、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、チョウゲンボウ、カワセミ、ツバメ、ヒヨドリ、モズ、ノビタキ、セッカ、シジュウカラなど（長嶋宏之）。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇10月11日、カイツブリ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、トビ、ノスリ、ツツドリ、コゲラ、ハクセキレイ、モズ、エゾビタキ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、カケス、オナガなど（長嶋宏之）。

さいたま市西区の鴨川 ◇10月12日午後、鴨川にかかる藤橋近くの桜並木でエゾビタキ1羽。島根橋～堀の内橋でカルガモ70羽十、コガモ40羽十、マガモ♂2羽♀2羽、オナガガモ♀1羽、ヒドリガモ♂1羽♀1羽、カワウ4羽、チュウサギ、コサギ、カイツブリ、カワセミ、イソシギなど。川の中央でアオサギが胸の高さまで水に浸り、5分間程静止。随所でモズが高鳴きと擬声（オオヨシキリやヒバリ？）（大塚純子）。

表紙の写真

チドリ目チドリ科チドリ属コチドリ

2016年3月30日、狭山市内の人間川で撮影しました。
佐藤久志（狭山市）



行事案内



ベニマシコ(田口勝利)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。実際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。

戸田市・彩湖探鳥会

期日：3月4日(土)

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。

交通：JR 埼京線 武蔵浦和駅東口から、②番バス乗り場下笹目行き 8:28 発で、「彩湖道満グリーンパーク入口」下車。直前の交差点まで戻り左折して土手を越える。

担当：石塚(敬)、石塚(真)、今村、大井、小林(み)、新部、野口(修)

見どころ：すっかり“着飾り”終えたカヌムリカイツブリをはじめ、旅立ち始める鳥達を見送ります。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：3月4日(土)

集合：午前9時30分、県立さきたま史跡の博物館前レストハウス。

交通：JR 行田駅東口から、行田市内循環バス・観光拠点コース左回り 9:05 発で「埼玉古墳公園前」下車、徒歩約2分。

担当：相原(修)、相原(友)、大坂、岡安、竹山、立岩、内藤、野口(由)、村上、茂木

見どころ：古墳公園から古代蓮の里まで約 3.5 km の片道コース。オオジュリンなどの小鳥、クイナ類、カモ類などを観察します。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：3月5日(日)

集合：午前9時、環境学習館前。

交通：JR 宇都宮線 蓮田駅東口から朝日バス 国立東埼玉病院行き 8:50 発で「新井団地」下車。バス停からご案内します。

担当：玉井、青木、内田、榎本(建)、小林(み)、田中、長嶋、長野、菱沼(一)、菱沼(洋)、星野、吉安

見どころ：鳥達は北への帰り支度が始まり、さえずり、羽色の変化、ペアの成立などが見られるようになります。春の兆しを道端の早春の野の花と併せて探しましょう。

ご注意：車で来られる方は、出発地点の環境学習館ではなく北側にある“緑のトラスト保全第 11 号地 黒浜沼駐車場”を利用してください(環境学習館まで徒歩 1 分)。

寄居町・玉淀河原探鳥会

期日：3月5日(日)

集合：午前9時30分、寄居駅南口駅前広場。

交通：秩父鉄道 熊谷 8:52 分発、または東武東上線川越 8:18→小川町乗り継ぎで寄居下車

担当：茂木、井上、今村、鶴飼、堀口、松下
見どころ：寄居の町中を歩き梅の香りを嗅ぎ河原まで行きます。冬鳥と春を告げる鳥たちの交代で賑わう荒川沿いを鉢形城入口まで歩きます。シメやベニマシコは常連。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：3月7日(火) 平日

集合：午前9時20分、森林公園南入口前。

交通：東武東上線 森林公園駅北口から熊谷駅南口行きバス 9:00 発で「滑川中学校」下車。ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過してください。下車後、歩道橋を渡り、戻ります。

費用：参加費以外に入園料 410 円(子供 80 円)、65 歳以上 210 円(要年齢を確認できるもの)。

担当：中村(豊)、大坂、大畑、岡安、内藤、藤掛、藤澤

見どころ：早春の森を歩けばヤマガラ、シジュウカラ、ウグイスたちのさえずり。故郷へ帰る冬鳥たちも見送みましょう。山田大沼まで、約3kmのやや起伏のある道です。探鳥会終了後、希望者は南口までご案内します。その場合には昼食をお忘れなく！

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：3月12日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道 大麻生駅前。
交通：秩父鉄道 熊谷9:09発、または寄居8:50発に乗車。

担当：茂木、新井、鷺飼、倉崎、田島、千島、飛田、中川、村上

見どころ：まだ主役は冬鳥ですが、ウグイス、ヒバリのさえずりも聞こえることでしょう。レンジャクの群れにも出会いたいです。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：3月18日(土)

集合：午前8時40分、東武伊勢崎線花崎駅南口階段下。集合後徒歩で現地へ。または午前9時、加須はなさき公園管理事務所前。
交通：東武伊勢崎線 春日部8:14→久喜8:27→花崎8:34。JR宇都宮線 大宮7:53→久喜8:15で東武伊勢崎線乗り換え。

共催：加須はなさき公園管理事務所

担当：長嶋、相原(修)、相原(友)、石川、植平、菊川、竹山、星野、茂木、渡邊

見どころ：園内で冬を過ごした冬鳥達は間もなく故郷へ帰ります。そんな身近な小鳥達を青毛堀川～公園内で探します。

さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：3月18日(土)

集合：午前8時15分、JR大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前9時、見沼自然公園駐車場南側のベンチ付近。

担当：浅見(徹)、浅見(健)、柏瀬、工藤、小林(み)、野口(修)、山田

見どころ：見沼自然公園とその周辺の農耕地や林で春を探しましょう。ヒバリはさえずっているかな。ツバメは飛んでいるかな。

お知らせ：「ビギナー探鳥会」を同時開催。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：3月18日(土) 午後3時～4時ころ
会場：会事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：3月19日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線 北浦和駅東口、集合後路線バスで現地へ（ご注意：案内人は8時過ぎに北浦和駅東口到着予定です）。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：小林(み)、青木、浅見(健)、楠見、小菅、須崎、新部、畠山、増田

見どころ：農耕地のあちこちにサンシュユ、レンギョウ、梅や桃。春に誘われて歌い出すヒバリやホオジロ、シジュウカラ。春の三室で、いろんな生きものの魅力が満開！

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：3月19日(日)

集合：午前9時30分、松伏記念公園北口駐車場。
交通：東武伊勢崎線 北越谷駅東口①番バス乗り場から茨急バス・エローラ行き 8:57 発で「松伏高校前」下車。道路の反対側が駐車場です。

担当：田邊、植平、佐藤、佐野、進士、野村(修)、野村(弘)、橋口、森下、吉岡

見どころ：公園とその周辺の農耕地を歩きます。初心者やお子様づれに最適。冬鳥が北へ帰り始め、気の早い夏鳥が渡って来る頃。季節の移ろいを感じながら春の半日を。

栃木県・日光東照宮裏山探鳥会

期日：3月20日(月・祝)

集合：午前9時25分、東武日光駅前。集合後路線バスで「総合会館前」まで移動。

交通：東武春日部7:44発スカイツリーライン 快速→東武日光 9:22 着。または東武栗橋7:57 発新栃木行→板倉東洋大前で8:11 発「快速」東武日光行きに乗り換え。

解散：午後2時ごろ、神橋付近で。

担当：浅見(徹)、植平、佐藤、佐野、玉井

見どころ：カワガラス、ミソサザイ、キバシリなどを求めて、沢沿いの舗装道路を約4

km歩きます。残雪のあることもありますので足ごしらえはしっかりと。昼食持参。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：3月20日（月・祝）

集合：午前8時、東武越生線 川角駅前。

交通：東武東上線 川越7:16（準急）→坂戸で越生線乗り換え7:39発。または寄居6:44→小川町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR川越線 大宮6:37→川越で東武東上線乗り換え。

担当：山口、青山、久保田、志村、鈴木（秀）、高草木、藤掛、藤澤、持丸

見どころ：川沿いにコンクリートの遊歩道ができて、様相が変りました。野鳥にとって、住みやすくなるのか、そうでないのか、気になるところ。残っている冬鳥や足もとの草花なども楽しみながら歩きましょう。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：3月23日（木）平日

集合：午前9時、羽生水郷公園北駐車場。

交通：羽生市福祉バス手子林・三田ヶ谷ルート（ムジナもん号）で東武伊勢崎線 羽生駅東口 8:05 発、南羽生駅 8:22 発、「キャッセ羽生・水郷公園」下車。

共催：羽生水郷公園管理事務所

担当：相原（修）、相原（友）、新井、植平、竹山、飛田、中川、茂木

見どころ：春の静かな公園でヨシガモやオオジュリンなど 去りゆく冬鳥たちに別れを告げましょう。コチドリやヒバリは繁殖相手を探し始めているかも知れませんね。

注意：帰りのバスの便は14:51発です。

秩父市・秩父ミュージックパーク探鳥会

期日：3月25日（土）

集合：午前9時10分、西武秩父駅前。集合後、ミュージックパーク循環バス 9:25 発で「音楽寺」下車。または午前9時40分、ミュージックパーク内の百花園駐車場。

交通：秩父鉄道 熊谷 7:41 発→御花畑 8:48 着→〈徒歩5分〉→西武秩父 8:55 着。または所沢 7:31 発（西武池袋線快速急行）→西武秩父 8:49 着。

解散：昼食後、午後1時半ころに現地で。西

武秩父駅行きのバスは14:24発。

担当：長野、青木、井上、佐野

見どころ：当会唯一の秩父市内での探鳥会。

昨年はウソ、イカル、マヒワ、アオゲラなど。のんびりと散策をしながらの鳥見です。ご注意：弁当持参。園内に売店はありません。

狭山市・人間川定例探鳥会

期日：3月26日（日）

集合：午前9時、西武新宿線 狭山市駅西口。

交通：西武新宿線 本川越 8:42 発、所沢 8:39 発に乘車。

解散：正午ころ、稲荷山公園。

担当：長谷部、石光、久保田、島崎、鈴木（秀）、高草木、中村（祐）、藤掛、星、水谷、山口、山本
見どころ：毎年恒例春の探鳥会は、カタクリとツバメです。まだ冬鳥たちが中心ですが、夏鳥たちの姿もちらほら。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：3月26日（日）

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。

または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷7:21発→春日部7:36→南栗橋7:52→柳生8:06着。またはJR宇都宮線大宮7:03→栗橋7:38着で東武日光線に乗り換え、柳生8:06着。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン。

担当：佐野、入山、植平、佐藤、進士、田邊、玉井、野口（修）、山田

見どころ：谷中湖は干し上げ中、調整池はヨシ焼の直後です。様子が一変した遊水地で、ベニマシコとツバメと一緒に見られるかもしれません。

東京都日野市・多摩動物公園探鳥会 （要予約）

期日：4月9日（日）

集合：午前9時45分、多摩動物公園内ウォッチングセンター前。

交通：JR武蔵野線西国分寺で中央線に乗り換え立川下車。徒歩約3分の「立川南」から多摩モノレール線で「多摩動物公園」下車。※多摩モノレールセット券（入園券込みで1,000円）があります

解散：午後3時ころ。多摩動物公園内たまご広場。

定員：20名(応募多数の場合、先着順)。
申し込み：往復はがきに住所、氏名、電話番号を明記して、入山博(

)まで。3月1日消印から

受付開始。

担当：入山、石塚(敬)、廣田

見どころ：多摩動物公園の協力を得て、いろいろな催しを計画。野生であり見ることができない鳥達を目の前でじっくりと。

その他：雨天決行。昼食・雨具持参。入園料(一般600円)は各自負担。

栃木県民の森・奥日光探鳥会(要予約)

期日：5月20日(土)～21日(日)

集合：20日(土)7時30分、東武アーバンパークライン岩槻駅東口。

交通：往復貸切バス(中型27人乗り)を使用。

解散：集合場所にて21日(日)午後6時ころ。

定員：22名(応募多数の場合、先着順)。最少催行人数16名。

費用：定員22名の場合、32,500円

定員に満たない場合は次のようになります。

21～19名 34,000円

18～16名 36,000円

※上記費用に交通費・宿泊費・2日目の昼食代・親睦会費・保険料等が含まれます。

※宿泊先は奥日光小西ホテルで、一部屋2名です。ご夫婦・親子での同室は可。それ以外は男女別の相部屋で個室の用意はできません。

※今回のツアーは、近畿日本ツーリスト(株)の受注型企画旅行となります。人数・費用が確定したのちに同社から案内状が郵送されますので参加費を振り込んでください。

申し込み：往復はがきに住所、氏名、性別、生年月日、電話番号(保険加入に必要)、喫煙の有無を明記し、入山博(

)まで。3月1日消印

から受付開始。

担当：入山、近藤、佐野、長野

見どころ：早朝の奥日光で、オオジシギの飛翔を見たいと思います。キビタキ等の夏鳥の美しい姿や声を堪能する2日間です。

野鳥記録委員会の最新情報

日本野鳥の会埼玉 野鳥記録委員会

●亜種リュウキュウサンショウクイ

学名 *Pericrocotus divaricatus tegimae*

分類 スズメ目サンショウクイ科サンショウクイ属



木戸利行さん(未入会の方)より、2016年11月8日にさいたま市岩槻区内で撮影した上掲写真ほか2枚が寄せられました。写真を検討した結果、当委員会はサンショウクイの亜種リュウキュウサンショウクイであることを確認し、本亜種の観察事例として記録することにしました。

我が国のサンショウクイにはふたつの亜種があります。ひとつは、主に本州から四国・九州にかけて夏鳥として渡来する亜種サンショウクイ *P. d. divaricatus*。もうひとつが主に南西諸島に留鳥として生息する本亜種です。この亜種は、以前から分布の北上・拡大が知られています。近年では静岡県や神奈川県での観察事例もあるようですが、本県内での写真を伴う観察報告は、当委員会としては初めてのことです。本亜種は、亜種サンショウクイに比べて上面の色が濃く、額の白色部が狭く、胸が濃灰色であることなどから識別が可能です。鳴き声も微妙に違います。

本亜種を独立種、学名 *P. tegimae*、英名 Ryukyu Minivet とする考え方もあります。



行事報告

10月15日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：9名

榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、大塚純子、志村佐治、藤掛保司、松村禎夫、三ツ矢正安

10月16日(日) さいたま市 三室地区

参加：80名 天気：晴時々曇

キジ カルガモ コガモ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ バン オオバン イソシギ オオタカ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ムクドリ ノビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ (29種) (番外：ドバト) 芝川ではカワセミやイソシギが飛び交う。畑ではキジの親子を観察。ハヤブサも出てくれた。折り返し後に向かった畑の上空では、オオタカ若とチョウゲンボウが気持ち良さそうに飛んでいた。そして、最後にノビタキ登場。終始、歓声此起彼伏の楽しい探鳥会だった。(須崎 聡)

10月22日(土) 埼玉Young探鳥会 室内交流会

参加：16名

東大宮コミュニティーセンターで開催。いつものフィールドを離れ、座学による初の試み。NPO法人オリザネットの古谷愛子さんを講師に迎え「なつみずたんぼとシギ・チドリ」をテーマに特別講義。前半は参加者同士、1対1での自己紹介、さらにグループに分かれ「鳥見」近況報告で打ち解ける。メインの講義では、鳥達も飛来する農耕地が生物多様性のすみかとなっていること。その保全のためには、そこに携わる農家の方々の理解と協力が必要で、その取組について……といった大変興味深い内容に、終了後も参加者同士の熱い会話がいつまでも続いていた。(石塚敬二郎)

10月22~23日(土~日) 長野県 戸隠高原

参加：25名 天気：22=晴、23=曇時々雨

ヒドリガモ マガモ カルガモ コガモ ホシハジロ キジバト アオバト カワウ オオバン トビ ハイタカ コゲラ オオアカゲラ アカゲラ アオゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス コガラ ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ゴジュウカラ キバシリ ミソサザイ マミチャジナイ ツグミ ジョウビタキ キビタキ ムギマキ スズメ アトリ カワラヒワ シメイカル ホオジロ カシラダカ アオジ (43種) みどりが池ではコガモ、途中でアトリの群れに出会ったが、鳥の数が少なかった。鏡池では、初めてのカワウとカモ数種類を観察した。隋神門近くの枯れ木でオオアカゲラとアオゲラ。鳥居近くにムギマキが居るとのことで、行ってみると大勢のカメラマン。全員無事にムギマキを観察できた。翌日は、みどりが池のナナカマドで、待望のマミチャジナイ1羽をやっと観察できた。ツグミ類がほとんど居なくてさびしかったが、種類数は久しぶりの40台であった。(菱沼一充)

10月23日(日) 行田市 さきたま古墳公園

参加：53名 天気：晴

キジ マガモ カルガモ コガモ キジバト ゴイサギ アオサギ ダイサギ コサギ バン トビ オオタカ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシブトガラス ハシボソガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ カワラヒワ イカル オオジュリン (32種) (番外：ドバト、ムシクイ科不明種1) 開始前からジョウビタキ♂が現れ、今季初認の方が多く盛り上がった。雑木林ではカラ類やメジロが飛び交い、遠くを猛禽が飛ぶ。ハイタカ? オオタカ? 皆で識別するのも探鳥会の楽しみ。旧忍川ではオオタカ若鳥が水面を飛び、ヨシに隠れていたゴイサギ数十羽が飛び出す。最後にはイカル数羽が見られた。(相原修一)

11月3日(木、祝) 行田市 利根大堰

参加：47名 天気：快晴

オカヨシガモ ヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ マガモ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツ

ブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ
 コサギ オオバン イソシギ セグロカモメ ミ
 サゴ トビ チュウヒ ノスリ チョウゲンボウ
 ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラ
 ス ヒヨドリ ジョウビタキ スズメ キセキレ
 イ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ
 カワラヒワ ホオジロ (40種) (番外:ドバト)
 利根大堰から水面に浮かぶカモ達を見て、カモの
 識別談議で盛り上がる。利根大堰の下流に移動し
 て昼食。カワウの大群が飛んできてビックリ。川
 の水量は多かったが、お日当てのサケの遡上も見
 る事ができた。 (入山 博)

11月5日(土) 上尾市 丸山公園

参加: 35名 天気: 曇後晴

マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバ
 ト カワウ トビ オオタカ カワセミ コゲラ
 モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス
 ヤマガラ シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウ
 グイス エナガ メジロ ツグミ ジョウビタキ
 スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキ
 レイ アトリ カワラヒワ シメ ホオジロ ア
 オジ (32種) (番外:ドバト) バスのダイヤ変更
 で探鳥会の集合時間、集合場所、コースも変えざ
 るを得なくなり、それがどう影響するか心配だっ
 したが、参加人数も例年より多くひと安心。鳥の方
 は、早々にツグミが見られてヨカッタ。そして、
 圧巻だったのは何百羽というアトリの群れ。行く
 先々で群れ飛んだり木に止まったりしてくれた。
 その他、ジョウビタキやシメなど、やって来たば
 かりの冬鳥たちを充分に楽しめた。 (吉原早苗)

11月6日(日) 春日部市 内牧公園

参加: 42名 天気: 快晴

カルガモ キジバト アオサギ バン トビ オ
 オタカ ノスリ カワセミ コゲラ チョウゲン
 ボウ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブ
 トガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒバリ ヒ
 ヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ
 ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ
 セグロセキレイ タヒバリ アトリ カワラヒワ
 シメ ホオジロ カシラダカ (33種) 久しぶり
 に30種余りの鳥を確認。特にタカ科3種、ハヤブ
 サ科2種も出てくれるという鷹日和となった。こ
 んなことは滅多にないだろう。1人では限界があ

り、40余名の参加者の目のお蔭である。また、探
 鳥会の効用であり、醍醐味と思う。 (石川敏男)

11月10日(木) 羽生市 羽生水郷公園

参加: 53名 天気: 曇

ヨシガモ マガモ カルガモ コガモ カイツブ
 リ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ ク
 イナ バン オオバン トビ オオタカ カワセ
 ミ コゲラ ハヤブサ モズ ミヤマガラス ハ
 シボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ
 ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ツグミ
 ルリビタキ ジョウビタキ スズメ ハクセキレ
 イ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジ
 ロ カシラダカ オオジュリン (37種) (番外:ド
 バト) 林でメジロ、シメやジョウビタキ。頭上
 をハヤブサが飛び、クイナ、オオジュリンが鳴く、
 ヨシガモはきれいな繁殖羽のオスが見られ、カシ
 ラダカを見ていると上空にミヤマガラスの群れ、
 オオタカも飛ぶ。最後は初記録となるルリビタキ
 の登場に盛り上がった。 (相原修一)

11月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 55名 天気: 快晴

コジュケイ キジ キジバト アオサギ ミサゴ
 トビ ツミ オオタカ ノスリ コゲラ モズ
 カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジ
 ユウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ
 ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセ
 キレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラ
 ヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (31
 種) (番外:ガビチョウ) 気温がぐんぐん上が
 って絶好の猛禽日和。とはいえ距離が遠くて識別が
 悩ましい。頭上を低く旋回してくれたのはオオタ
 カ若鳥くん。ありがとう、全員で楽しめたよ。ツ
 グミも地面に下りていたし、林の中でも冬鳥の渡
 来を確認する。 (榎本秀和)

11月19日(土) さいたま市 見沼自然公園

雨のため中止。

(浅見 徹)

11月19日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 12名

相原修一、宇野澤晃、海老原教子、海老原美夫、
 大坂幸男、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、松
 村禎夫、三ッ矢正安、吉原早苗、吉原俊雄



● 『探鳥地ガイド・首都圏版』に協力

(株)文一総合出版(新宿区)BIRDER 編集部から廣田純平幹事に「2017 年初夏発売予定で、別冊 BIRDER スペシャルの 1 つとして『探鳥地ガイド・首都圏版』を企画。その中の埼玉県枠 13 ヲ所の探鳥地紹介を、日本野鳥の会埼玉の方々に分担執筆お願いしたい」とのメールが届きました。1月15日(日)の役員会などで話し合い、それに協力すること、廣田幹事が執筆者との連絡取り纏め等を担当することに決まりました。

前回『決定版・日本の探鳥地 首都圏編』が同社から出版されたのは今から 13 年前、2004 年のこと。その時も多くの方に執筆していただきましたが、今回はその顔触れが大分入れ替わるようです。

● 会員の普及活動

2016 年 11 月 27 日(日)、坂戸市環境学館いずみの「バードウォッチングウォーキング」講座が、同館から高麗川の堤防と葛川沿いに入西(にっさい)こはるが池まで往復するコースで開催され、坂口稔が指導しました。

2017 年 1 月 11 日(水)、彩の国シニア自然大学校「野鳥観察コース」第 3 回が、長瀨駅から上長瀨のコースで開催され、小林みどり、石塚敬二郎、榎本秀和、近藤龍哉が指導しました。

● カスミ網現場視察

2016 年 12 月 21 日(水)、東松山環境管理事務所担当者 2 名、同事務所所属の地元鳥

獣保護管理員、当会会員の鳥獣保護管理員、情報提供者各 1 名が吉見町のカスミ網が張られていた現場を視察。網はなかったが、支柱が残っていました。地元鳥獣保護管理員が引き続き監視することになりました。

● 会員数は

2 月 1 日現在 1,711 人。

活動と予定

● 1 月の活動

- 1 月 14 日(土)『しらこぼと』2 月号校正 (海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、長嶋宏之)。
- 1 月 15 日(日) 役員会(司会:田邊八州雄、文一総合出版の件・探鳥会予定の変更・その他)。
- 1 月 23 日(月)『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこぼと』2 月号を郵便局から発送(事務局)。

● 3 月の予定

- 3 月 4 日(土) 編集部会。普及部会。
- 3 月 11 日(土) 4 月号校正(午後 4 時から)。
- 3 月 18 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。
- 3 月 19 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

編集後記

前にも紹介した野鳥データベースは、2005~2010 年の夏鳥・冬鳥調査結果の分析や野鳥分布図の作成に活用するとともに、分析機能を充実させるプログラム改良やデータ入力を進めてきた。今後、継続するための体制づくりが必要であり、協力者を募集したい。ACCESS を勉強したい方も大歓迎。(森本)

しらこぼと 2017 年3月号(第 395 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamazekuzoku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社